

第2章 巣鴨街づくりワークショップ参加チームからの提案

1. ひとみち（巣てきでいい鴨研究会）



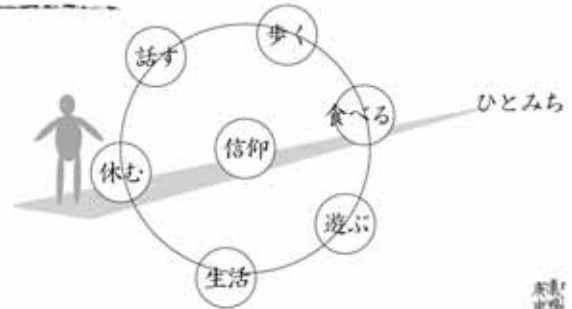
中橋 英雄 渋谷 泰孝 鳴井英俊 上野 麻衣子
 荻瀬 明日香 田代 展子 加藤 翔

ひ ～ひとみち～

- (1) 人間として守るべき道。人の人たる道。にんどう。
- (2) 広い道路などで、人間の歩く道として車道と区別された部分。歩道。

昔から旧中山道は、人々の重要な交通路として多くの人々ににぎわってきた。その中でも特に巣鴨は高岩寺、真性寺と庚申塚という宗教空間を結ぶ軸を中心にして発展してきた特殊な空間だった。近年になり道という道が自動車に占有され、人のための道「ひとみち」とそこで行われてきた宗教的な行為が大きく制約を受けるようになった。さらに白山通り拡幅事業に伴い、旧中山道「ひとみち」、すなわち人々の賑わいや信仰の場所の喪失が危惧されるようになってきた。

我々はその失われつつある「ひとみち」を巣鴨にできるだけ多く残し、そこでの賑わいや宗教的な行為を今まで以上に活発にする場所を提案するために、対象地のコンセプトを「ひとみち」とした。



江戸名所図会より

と

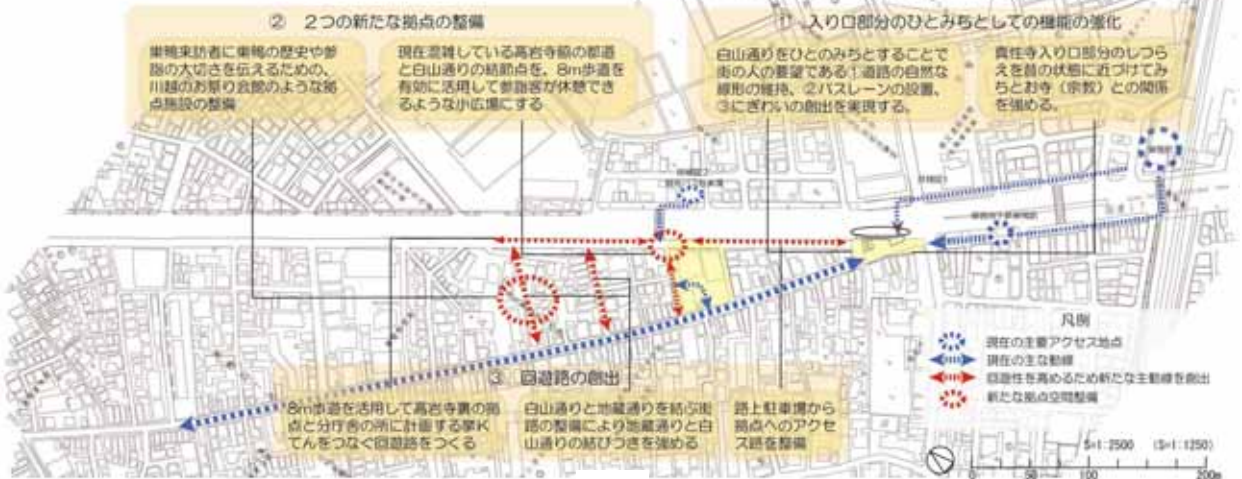
げぬき地蔵へ向かう入り口部分であるこの場所では、高岩寺へ向かう人の流れ、真性寺の存在感と、商店街での人々の活動、そして白山通り側での通過交通において様々な問題を抱えている。それらの諸問題を解決するためにも、私たちは、広場空間、歩道、商店街、真性寺入り口部分を一体的に扱い、より魅力的に整備する次のプランを提案する。

◎入り口部分をみちとして、拠点として再生する

入り口部分は請願書の意向を実現するとともにひとみちとしての再生を目指す。ひとみちでみられたような商業的にぎわい、歩行者の滞留、宗教的な行為などが行われるための空間のしつらえを目指す。

◎新たな拠点整備と拠点をつなぐ回遊路の創出

今後もさらに商店街が活性化していくためにも、商店街一帯の回遊性をより固めていくことが望まれる。その手段として、未整備の土地、あるいは再整備の必要性がある土地を有効活用し、拠点となる施設を設置することも考えられる。拠点となる施設にはトイレの設置、休憩スペース、展示場等を設け、人々の憩いの場とする。



みち

の始まりである真性寺前では日々多くの人々の往来がある。その多くの人々の流れをスムーズにさせるためにも十分なスペースを取り、ベンチを配置し、ゆったりとした滞留空間を生み出す。



◎ポイント①旧中山道の線形と入り口部分の設えについて

旧中山道の線形上にサクラ（ソメイヨシノ）を列植して、古くからの街道（みち）の形を強調する。また、真性寺の入り口には江戸六地藏の脇にある山門を移築し、さらに入り口部分の舗装を変えることで人々の意識を真性寺に向かわせ、昔からある真性寺の空間を強調する・さらに、みちの基点としての象徴である商店街のアーチを残した形で空間の整備を行う。地藏通りへ入る車は広場先から左折気味に進入できるようにする。



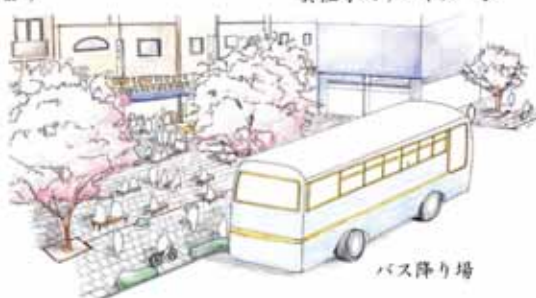
江戸名所図会より



真性寺入り口イメージ

◎ポイント②観光バスの停車帯について

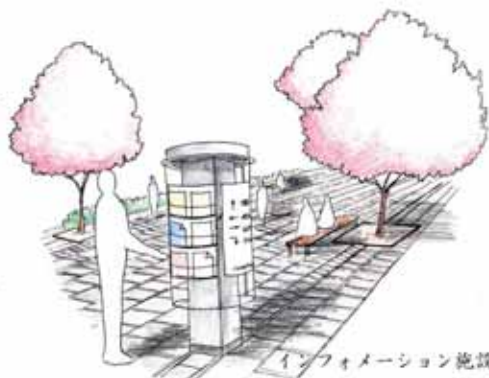
バスが2台停車できるバス停車レーンを設けて、参詣客が参道の入り口からお参りでき、回遊性のある参詣空間をつくる。



バス降り場

◎ポイント③広場とインフォメーションについて

広く取った歩道上にサクラを軸として来訪者が滞留できるような広場を確保する。広場の中心には高岩寺の方向や商店街の情報などがわかるインフォメーションボックスを設置する。



インフォメーション施設

◎ポイント④歩行者の白山通り横断対策

歩道橋が撤去されるが、都営三田線に新設されるエスカレーターにより白山通りの横断が可能になることから新たな歩道橋、横断歩道の新設は行わないので交通の混雑に配慮する。

